

第18号

創立100周年記念特集号
平成30年3月発行



山梨県立山梨高等学校同窓会 同窓会だより



山梨高校創立100周年
記念事業実行委員会会長
吉原 五鈴子

あいさつ ～ご協力に心から感謝して～

ここに「山梨高校同窓会だより第18号」をお届け出来ますことは誠にありがたく喜びにたえません。このたよりをお届けするようになりましてから早9年が過ぎようとしております。今号は昨年秋に行われました「山梨高校創立100周年記念事業」報告号とさせていただきますことにしました。

ご案内の通り創立100周年記念事業は、築後40年を経過し少々痛みも見えたり使い勝手の思わしくなかった同窓会館の全面改修をメインに、記念式典、記念講演、記念誌発行、記念祝賀会等々、記念事業実行委員会による企画を全て完了したところであります。

記念式典には後藤山梨県知事様はじめ高木山梨市長様など多くのご来賓をお迎えし、多くの激励のお言葉を頂くなど盛大に挙行することができました。これもひとえに多くの方々の方々に本校にお寄せ下さるご厚情ご支援の賜物と厚く感謝致しております。

当日は天候も回復し速く大阪や東京などからご来会頂いた同窓生もおられました。そうした方々にもご寄稿をお願いし、記念行事の一端をご紹介することに致しました。

来年は、天皇陛下ご退位の旨も報せられ、元号も改められる誠に一大エポックを画す年にもなります。本年度皇居歌会始めの美智子皇后さまの御製

「語るなく重きを負いし君が肩に早春の日差し静かにそそぐ」にしみじみとした感慨を覚えた次第です。

どうか迎えます新しい歩みが平和の内にまた豊かに拓かれますよう心から祈念し、あいさつと致します。



創立100周年記念事業ご協力に感謝

去る平成29年10月7日、100周年記念式典が本校体育館において挙行されました。この事業は、平成25年度から同窓会、PTA、PETA、山梨高校を育てる会および教職員を柱に立ち上がった実行委員会を中心に進められた大きな事業でした。特に同窓会におかれましては、執行部や各支部役員の方々をはじめ、非常に多くの皆様から物心両面にわたるご協力をいただき感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。

事業を進めていくにあたり、残されている開校時の資料に目を通すなかで、往時の本校の姿を想像することが多々ありました。過日、遅ればせながら本校発祥の地である、山梨市小原西の水の宮児童公園と隣接する大井俣神社を訪ねました。児童公園の東側道路沿いには、創立70周年記念事業において建立された「山梨高等学校発祥の地」の石碑があることは多くの同窓生の皆様もご存じのことと思います。記念誌によると神社の森に接していたことから、当時は「森の校舎」と呼ばれており、写真にも巨木が映り込んでいます。現在も神社の境内には杉の大木が聳えており、その面影をしのぶことができます。当時の生徒たちは今と変わらない姿の乾徳山、大菩薩嶺、小金沢連峰など甲州の山々に見守られながら、この地で青春の一時を過ごしていたのだらうと、ひとり思いを馳せました。今回の事業で出版された記念誌には、往時をしのぶ資料や多くの同窓生の山梨高校に対する熱い想いがまとめられており、勤務する者として身が引き締まる思いです。

この春、全日制・定時制で合計189名が無事卒業を迎え、同窓生の仲間入りをさせていただきました。同窓生の皆様には、今後も卒業生・在校生への変わらぬご支援ご協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。



山梨県立山梨高等学校 校長
三森 克人

山梨高校創立100周年記念事業を終えて

去る平成29年10月7日、この記念すべき日にふさわしく好天に恵まれ、晴れやかに山梨高校創立100周年記念式典が執り行われました。

創立100周年記念事業が、数年にわたり多くの方々からの言い尽くせないご協力を頂きこの時を迎える事ができ、唯々感謝の一言です。

記念誌をひも解くと、どのページにも心温まる思い出が詰まっております。更に、事業の大きな目標であった同窓会館の全面改修。新築なった同窓会館の欄には同窓会誌をはじめ脈々と続いてきた諸先輩たちの営みが整然と並べられ、改めて先人の歩みを知る事となりました。この同窓会館は、生徒たちが部活動の場として、また、同窓生の様々な活動の拠点として益々その本意を発揮することでしょう。

記念講演では「未来を生きる若者へのメッセージ～日本語力と身体感覚をきたえる～」と題して、明治大学教授齋藤孝氏の熱い思いをお話し頂きました。講演の中で「これからの若者はコミュニケーション能力を養うことが大切である」との齋藤先生の言葉は、山梨高校生にとって大きな財産として心に残ったことでしょう。今は、一大事業を無事にやり終えた達成感と安堵感がいっぱいです。多くの同窓生など、本事業に関わった全ての方々に感謝を申し上げ、山梨高校の益々のご発展を祈るばかりです。



改装になった同窓会館

奨学金授与式

12月7日、平成29年度の奨学金授与式が行われました。学校長をはじめ、関係の先生方、同窓会役員の見守る中を7名の奨学金が緊張した面持ちで入場してきました。

授与式では、吉原会長や三森校長から生徒たちへの指針となる励ましの言葉が贈られました。これらの言葉は、これからの人生においての生きる力となって奨学金の心に深く刻まれた事と思います。式の最後に、奨学金の代表からの御礼の言葉も述べられました。

創立50周年から始まった奨学金授与は、今年度で50回目となり、授与された生徒は300名を超えました。この制度がずっと続けられることを願っております。



飛翔

同窓会入会式

暖かな春の日ざしに包まれた2月28日、平成29年度山梨高校同窓会入会式が和やかな中におごそかに執り行われました。

全日制183名、定時制6名、計189名が新会員となられました。その中から全日制各クラス2名と定時制1名の計11名が理事として任命されました。

吉原同窓会長からは、同窓会の意義や冬季オリンピックの若者の活躍を讃えつつ「努力は必ず報われる」との言葉が贈られ、さらに、同窓会からの記念品が手渡されました。

終わりに、新入会員を代表して、遠藤威吹さんから「私たちも先輩たちのように、山梨高校や同窓会の発展に尽力できるような人間に成長していきます」との、決意の言葉が述べられました。

卒業証書授与式に臨んで

3月1日、平成29年度山梨県立山梨高等学校卒業証書授与式が厳粛の中挙行され、三森学校長から189名の卒業生に卒業証書を、46名の卒業生へ3年間の皆勤賞が授与されました。

式辞では「創立100周年の記念の年に卒業された皆さんが、それぞれの道に進まれた後も、本校の歴史の中で受け継がれている校訓『至誠無怠』の精神と母校の誇りを胸に、どんな時も努力してください」との言葉がありました。

吉原同窓会長からは「これからは人と人とのコミュニケーションが重要ですので、日本の言葉を大切にするために、沢山の本を読んでください」と、はなむけの言葉が贈られました。

式後、盛大な拍手に見送られて旅立つ卒業生の堂々とした姿に感動すると共に、これからの更なる活躍をと、願うばかりでした。



山梨高校100周年記念に参加して 卒業生からの寄稿

歴史の変遷を感じた日

昭和37年度卒 澤登 美春 (大阪府在住)

大阪で教職生活を送り、定年退職後70歳で子ども達に関わる全てを終えて、時間に少し余裕が出来た頃、梨窓会東京支部役員の方から100周年記念のお誘いを頂きました。

卒業以来、山梨高校を訪れていない私にとって懐かしい学び舎と久しぶりに友と会える又とない機会。ぜひ出席したい旨お伝えしたところ、ご案内を頂きまして有難うございました。

ワクワクした気持ちで臨んだ日、生徒たちからの「おはようございます」との清々しい挨拶に迎えられました。式場では、男女共学を目の当たりにして、女子校だった自分の頃と様々比較しました。すぐ横に並んで座る生徒たちは、式典・講演中も真面目な態度で、特に人の話を聞く姿勢に好感を持ちました。校長先生をはじめ教職員の一一致した教育観のもとに創り上げた校風は、生徒に受け継がれているものと思えます。生徒の皆さんには力強く生きて欲しいと願うばかりです。男女共学から女子校そして再び男女共学と変遷し、校舎も様変わりしました。歴史の重みを実感しています。

梨窓ホールでの祝賀会では、男性も多くおられ同席のお二人も大先輩の男性でした。山梨弁や大阪弁交じりで皆さんと和やかに歓談しました。お陰様で充実した一日。今なお余韻が残っています。梨窓会役員・実行委員の皆様へ感謝申し上げますと共に、山梨高校の今後の益々のご発展をお祈り申し上げます。

在校生からの声

生きる勇気をいただいた 齋藤先生の講演

2年4組 依田 樹

「今年度、山梨高等学校は創立100周年を迎えます」という言葉を聞いても100周年という年に、初めは実感が湧きませんでした。式典準備の時に、山梨高校の歴史を聞き第一世界大戦中の大正6年4月に本校が誕生したことを知り、日本史の大正時代の学習を思い出し、少しずつ実感が湧いてきました。今は男女共学にもなり、私たちは山梨高校を選び、誇りを持って学んでいます。

100周年記念式典では、校歌を二部合唱で歌いました。もともと二部合唱として編曲してあったそうです。自分とは違うパートの声を聞き、響き合いを感じながら歌いました。式典の後は、齋藤孝先生の記念講演でした。「未来を生きる若者へのメッセージ」という題で、私たちが未来に生きるための道しるべとなるような言葉を多く頂きました。その中で私は「心を開ける」という言葉が特に印象に残っています。今まで、話す人を見る、話す人の方向に顔を向けることは意識していましたが、「心を開ける」という言葉は初めてで、はっとさせられました。私はこの言葉をずっと大切にしていると思っています。齋藤先生は、将来立ち止まってしまうような時に勇気付けてくれたり、方向を示してくれたりする言葉を沢山下さいました。その一部は職員室や図書室に掲げられた色紙に残されています。

記念すべき100周年という節目の年を在校生とした迎えることができたことは、ほんとうに光栄に思います。この思いを大切に、母校山梨高校の発展に尽くしていきたいと考えています。



「努力は必ず報われる」 部活で学んだ教訓

昭和28年度卒 横道 悦子 (東京都在住)

八十路を少し過ぎた私が、梨高の創立100周年記念号に祝意と思い出を披露する機会を与えて頂いたことに、心より感謝申し上げます。

私は、入学直前に大病を発症し、長期入院を余儀なくされ、入学できたのは桜の花も散り、初夏の7月の終わりでした。昭和29年当時は生徒数も多く、普通科8組、家庭科2組で、更に各組50名の1学年500名と大部隊でした。他に定時制クラスもあったため、教室が足りず加納岩小学校の教室を借りての授業でした。男女共学が始まり、女子高に初めて男子が1クラス10名ずつ配属されました。

私は病後のため、外での運動は禁止され、体育館ならと、バトミントン部に入部しました。狭い体育館では、体操部や卓球部など練習の場所どり争奪戦を演じたものでした。私たちは、他の部の練習が終わった後の夕方練習の時もありました。

高校3年時に、第8回国体が四国で開催されました。大病のため、仲間より遅れてスタートしたのですが何とか国体に参加したいとの強い意志と持ち前の負けん気に火が付き、猛練習に数カ月明け暮れました。その結果、山梨県代表選手に選出され「努力すれば必ず報われる」との人生の貴重な教訓を得ると共に、私の青春に輝かしいページが記録できました。

最後になりましたが母校山梨高校の益々の発展と教職員並びに全校生に幸あらんことを祈念しております。



男ありて ~その青き時代~

昭和28年度卒 笠井 一美 (東京都在住)

僕が憧れの山梨高校に入学したのは、昭和26年の4月で校庭の桜は満開だった。

男女共学の第2期生で、普通科8クラスと、家庭科2クラスで、男子は3割程の生徒数。大所帯だったため、校庭で行なったクラス分けは混乱した。

未だ山梨師範学校の学生が、校舎の一部に同居していた関係で、当然教室は不足状態であった。

苦肉の策で、男子クラスと女子の2クラスが隣接する、加納岩小学校の隅の一角を借用した。倉庫を改修した教室はそれは粗末で、不便極まりない状況であった。

職員室から徒歩で8分程度の教室は、教師たちも何かと苦勞が多かった筈である。更に目が行き届かないのを幸いと、一部の男子は生活態度が乱れ、校則違反は徐々にエスカレートする始末だった。

初めて本校の教室に入ったのは、音楽の時間で校歌の授業だったと記憶している。僅かな時間でも、教室の雰囲気は格別で非常に嬉しかった。山梨高校の生徒なんだと、この時実感した。

卒業後60数年経過したが、残念に思うことが一つある。男女共学で発足した学校にも拘わらず、僅か6年でその制度が廃止され、元の女子校に逆戻りした事である。担任だった樋口嘉友先生から頂いた「当事を恨むと心が痛みます。関係者の対応が適切でなく変則的な形に推移し誠に申し訳ない」との便りが、昨日の様に浮かぶ。この便りを頂き信頼出来る教師、山梨高校に入学したのは決して間違っていないと確信した。

世情混乱の中、男女共学も復活した母校。そして創立100周年の僕の母校。誇りの母校。感慨無量である。

在校生からの声

生かしたい

「言葉のキャッチボール」

1年3組 三枝 美穂

山梨高校創立100周年記念式典の記念講演は、現在明治大学文学部教授の齋藤孝先生をお迎えして行われました。先生は、テレビ出演も多く、また、著書も数多くおありになる方ですがその話し方は特徴的で、思わず聴き入ってしまうのです。どの話も大変興味深いものでしたが特に印象的だったのは、講演中、齋藤先生と生徒との間に壁を感じられなかったことです。これまでは、講演者が一方的に話しかけて、私たちは理解しているものの返事や相槌を打たずにすませていました。齋藤先生は講演を始める前に「聞いたら返事をしてください」「真似をしてください」と生徒たちに呼びかけてくださったのです。とまどいながらも返事をしたり、真似をしたりする生徒が徐々に増えていき楽しい雰囲気広がりが、会場にいる皆で講演を作り上げている様でした。

「言葉のキャッチボール」と齋藤先生は言い表しました。言葉を投げかけられたら返す。私たちはそんな当たり前のことに気付かされました。齋藤先生が生徒に壁をつくらず積極的に言葉をかけてくださったおかげで、私たちは気づくことができたのだと思います。

この講演を創立100周年の節目として聴くことができ、これからの私たちの、また山梨高校のあり方を示していただけたと感じています。

-同窓会・懇親会のお知らせ-

平成30年度 山梨高校同窓会 総会・懇親会

日 時 ▶ 平成30年4月29日(祝)午前10時00分~
会 場 ▶ 山梨県立山梨高校体育館ならびに梨窓ホール
当番幹事 ▶ 昭和50年度・平成7年度卒業生

会 員 券 ▶ 3,000円
同 窓 会 長 ▶ 吉原五鈴子
実行委員長 ▶ 鈴木 操

ぜひ
お出かけ
ください!!

記念行事

今回の懇親会は、卒業生窪田礼子さんの琴の演奏に、新進気鋭の男性若手奏者が賛助共演していただきます。おたのしみ!!

山梨県立山梨高等学校 同窓会事務局

〒405-0018 山梨県山梨市上神内1194
http://www.yamachikai.jp/jo/
TEL0553-22-1621
FAX0553-22-1623